

# ロシア ● ウクライナ

## 資本主義に戦争はつきもの 国家軍隊と「民衆の抵抗」は、労働者階級 と対立している。

- 戦争は資本主義の必然的な経済的必要性である。制御不能な力がすべての国家に誰も欲しがらず、誰も必要としない商品の不釣り合いな過剰生産によって引き起こされる全般的な危機を乗り切るために侵略政策をとらせる。
- したがって、戦争は一部の指導者の悪意や愚行から生まれたものではない。ウクライナ戦争は、自由民主主義体制と全体主義との衝突ではなく、帝国主義大国間の衝突である。
- 戦争は、国家間ではなく、帝国間の戦線、国家間の同盟の間で行われるものです。それは、人々の自由を確保するためではなく、専制と抑圧を強化するためのものである。自由は、労働者階級を戦争の炉に投げ入れるための口実に過ぎない。
- ウクライナの民族主義は西洋帝国主義の仮面であり、ウクライナにおけるロシア人少数民族の擁護がロシア帝国主義の正当化に役立つのと同じである。
- これは代理戦争である。ロシアの資本家は、自分たちのビジネスと、勃発しつつある一般的な紛争のためのスペースを取り戻したいと考えている。西側の資本家は、東側での拡大のために、ウクライナ軍と「レジスタンス」を武装させて戦っているのである。
- ロシア軍、ウクライナ軍、「パルチザン」が、対立するが同盟関係にある二つのブルジョアジーの人質となったウクライナの労働者を包囲しているのだ。党派主義」はその逆で、階級闘争の否定である。
- 一方、ロシアのブルジョア警察は、戦争に反対する人々を逮捕し、弾圧しています。
- それは、今日ウクライナとロシアの、そして全世界の労働者階級にたいする反動的な戦争である。直接的な意味でも、一般的な歴史的な意味でも。
- 戦争は資本主義を世界的に維持するためのものである。それは、目に見えないが常に存在する妖怪として、その怪物のような苦悩の段階にある資本主義の内部で成熟し、圧迫している共産主義に対抗するものである。なぜなら、誰からも否定されている共産主義は、資本の独裁が倒されれば、すでに誕生する準備が整っているからです。
- 労働者階級には、守るべき祖国がない。ただ、彼らを束縛することを第一の目的とする主人のあらゆる国家に対して、自らを守り主張する必要があるのだ。

- - ウクライナの労働者にとって、ロシアの労働者にとってと同様に、ウクライナやロシアの資本家に搾取されても、ウクライナやロシアの支配者に撃たれても、何も変わることはない。
- 同様に、ロシア、アメリカ、ヨーロッパのプロレタリアなどにとっても、主人が敵対する帝国主義圏に勝利したり粉碎されたりしても、彼らの悲惨な状態は何も変わらないのです。
- ブルジョア平和主義は、戦争の現実直面し、ブルジョア・ウクライナ国家の旗を掲げるために虹の旗を、「自由のための」戦争を賞賛するために平和という言葉に従順に隠しているのです。

共産主義者は、ブルジョアジーの戦争に、兵士と若いプロレタリアとの友愛をもって反対する。そして、労働組合のレベル、ストライキのレベル、国際共産党のレベルで生まれ変わった労働者の国際的連帯の中で、社会階級の一般的闘争に反対するのである。

プロレタリアの反軍国主義は、ただ一つの合言葉を持つことができる：

## 戦争に戦争 平和と戦争におけるボスと国家に対する階級闘争、 共産主義まで。

### 階級闘争万歳、プロレタリアート独裁万歳!

我が党を差別化するもの：

- マルクスからレーニンへの路線、1921年のリヴォルノにおける第三インターナショナルとイタリア共産党の設立、モスクワの退廃に対するイタリア共産党左派の闘い、人民戦線と党派ブロックの拒否に至る。
- 個人的な政治や選挙に関係なく、労働者階級と接触して、教義と革命的な組織を回復するための大変な仕事である。

<http://www.international-communist-party.org/>